

香港日本語教育フォーラム

Vol. 2 (2020 年 6 月)

発行：香港日本語教育研究会

目次

- ◆はじめに
- ◆香港日本語教育
ニュース

P1

- ◆集中日本語教師研修

P2

- ◆図書案内 by 斎藤誠

P7

- ◆香港日本語教育研究会
イベント情報

P12

- ◆投稿の募集
・質問箱

- ◆編集後記

P13



はじめに

「香港日本語教育フォーラム」第2号をお届けいたします。本誌は香港日本語教育研究会の会報誌であると同時に、香港の日本語教育を支える皆様の交流の場として、皆様に愛される存在でありたいと思っております。2020年は新型コロナウイルス感染症対策のため、当会主催イベント「香港日本語教育セミナー」（3月21・22日）、「香港小中学生日本語スピーチコンテスト」（5月10日）、「日本語教育国際研究大会2020 香港・マカオ（ICJLE 2020）」（10月31日、11月1日）が延期、「第1回日本語能力試験」（7月5日）は中止になりました。延期分は日程が確定し次第、当会HPにてご案内しますので、HPをご確認ください。皆様の現場も、この感染症対策と無縁ではないでしょう。オンラインに切り替えている機関が多いと思います。さて、本号では、当会主催「集中日本語教師研修」を特集します。今年の研修は、授業実習部分をオンラインに切り替え、修了まで続けました。過去2年間の研修を受けた方々の声とともに、香港で日本語を教えることの意味を皆さんで考えていけたらと思います。今後とも会員の皆様のご支援とご協力をお願い致します。



【特集】

**香港日本語教育研究会
集中日本語教師研修**

約 20 年前から続く毎年の研究会の教師研修は、授業実習から教授法へと形を変えながら実施されています。言語教育を取り巻く環境は、ICT 活用教育の進化や人の移動の活発化、CEFR に代表される各国の言語教育ガイドラインの整備により大きく変化しています。もしこれを読んでいるあなたの学生時代が 10 年以上前だったら、「『私』が習っていた頃」から大きく変化していることに驚くでしょう。

本研修は 2017-18 年度から、日本語教授法の理論を前半に学び、後半に授業実習と、8 か月間かけて行われています。理論編では『国際交流基金 教授法シリーズ』から 10 程度テーマを取り上げ、ワークショップ形式で学びます。研修生は講師（ファシリテーター）と共に考え、リソースを基にした議論・対話を通じて、「教師／日本語教育の役割とは何か」「外国語を習得するとはどういうことか」「いい授業とは何か」といった大きいテーマから、「聞くこと」「書くこと」「読むこと」「話すこと」「文字・語彙の教え方」「文法を教えるとは」「音声を教えるポイント」「評価」など具体的なテーマまで、これからの日本語教育に必要な観点、教師としての態度、基本的技術を習得します。実習編では、一般から募集した日本語学習者を相手に初級レベルの授業を実践し、授業に必要な基礎を 1 から学びます。準備は、授業のための基礎資料作りから始め、教案（授業プラン）、授業スライドや教材作りを講師とのやり取りで磨いていき、そして実習。最も重要なのは授業後のフィードバックです。学習者、見学者からもらったコメントで自身の授業を振り返り、次への改善を試すといったサイクルで、授業力を鍛えます。

2020-21 年度も、9 月下旬～5 月の予定で本研修を実施します。日本語を教えてみたい方の第一歩、日本語教師歴の浅い方（5 年未満が目安）の基礎力養成に合っています。日本語が母語の方も非母語の方も大歓迎です。

※本研修は日本語教師養成に必要な学習項目のうち、日本語教授法を中心に習得します。他の項目（言語学、日本語学、言語政策、日本事情等）は内容に含まれません。

◆2020-21 年「集中日本語教師研修」応募情報は下記をご確認ください。

<https://www.japanese-edu.org.hk/jp/activities/teacher/>

※本フォーラム発行時には昨年度の情報から更新されていない可能性があります。

※以下の記事に 2018-19 年度研修の様子が掲載されています。併せてご一読下さい。

国際交流基金「世界の日本語教育の現場から」（香港・2019 年度）

https://www.jpf.go.jp/j/project/japanese/teach/dispatch/voice/voice/higashi_asia/china/2019/report08.html

本特集では、2018－19 年度、2019－20 年度の研修修了生の方々の中から 7 名に、本研修を振り返っての感想を寄せて頂きました。生の声から、様子が伝われば幸いです。



[2018－19 年度修了生]

20 年以上前に別の機関で日本語教師養成講座を受講したことがありましたが、日本語教育の現場は日々変化していますので改めて学び直す必要性を感じ、受講することを決めました。私が受講した年の研修生は半分为香港人、半分为日本人でした。

理論編の期間中は毎回、教案作成の課題が出されました。「文字や語彙を教える」、「音声を教える」など目的を絞った授業の教案です。その都度、レベル・人数・対象学習者の設定、学習目標を明確にした授業案を作るのは大変でしたが、初級から上級までのレベルや中高生から大人までの様々な対象を自分で決め、多様な学習目的に応じた授業を考案する作業はとても楽しいものでした。またこうした案を他の研修生のものと共有し、検証し合えたことは貴重な経験にもなりました。斎藤先生は ICT を取り入れた教授法の知識やアイディアも豊富にお持ちでしたので、これからの時代の日本語教育について考える良い機会にもなりました。

実習では、授業の導入から応用までの流れ、それに付随する語彙表や宿題までを自分で考案し、授業で使用する教具なども全て作りました。実習後の振り返りでは、斎藤先生をはじめゲストの大学講師の先生、コーディネーターの先生や実習生からも率直な意見や感想をいただきました。実際に現場に立ってからはこうした率直な評価をいただけることはほぼありません。実習だからこそ得られる貴重な機会でした。

私は現在、語学学校で外国人に日本語を教える一方、海外で育つ日本人の子供たちに国語を教える現場にも立っております。多様な目的や条件を持つ学習者に対応する上で、本研修の経験が生かされていることは言うまでもありません。研修の終了時に日本語教育に対する想いや教育者としての目標を発表しましたが、本研修を通して香港における日本語教育の促進のみならず、香港と日本の文化交流の発展にも貢献したいという思いがさらに強くなり、今、人生の目標を明確に持ちながら教壇に立てることを嬉しく思います。

香港日本語教育研究会のマギー梁安玉会長、ボリス先生、研究会の皆様、そしてご指導くださった斎藤先生に心より御礼申し上げます。

龍池 千明

「集中日本語教師研修」が終わって一年です。斎藤先生が担当していた研修を受けられて、本当によかったと思います。日本に住んだことがない私は、単に日本語に興味を持っただけで、2014 年頃から日本語を教え始めました。もちろん、教師トレーニングを受けたこともなかった

し、セルフスタディーのように学習者と一緒にテキストを読みながら解説していくまま、果たして学習者は満足しているのだろうか、自分は教師として価値があるのだろうか、といった悩みが浮かびました。

この研修を受けて、教師の価値が明確になりました。教師が一方向的に教えるだけでは、学習者は脳が活性化しないので、学習者を動かす「教えない教師になりたい」という思いが出てきました。色んなテクニックで学習者に脳を活用させてアウトプットを達成できることや、テキストだけでなく身近なものをいかに利用できることなどを理論編で発見しました。勉強した理論を実践するのも大変でした。教案や PPT などを作るために何時間も費やして、完璧な授業を出すように、すごくストレスを感じていましたが、皆の実践レッスンを拝見したり、コメントし合ったり、いっぱい勉強になって、感謝しております。

これから研修を受ける方がいらっしゃるのなら、ぜひ皆さんといっぱい話したり考えたりして、自分なりの教師になるように楽しんでください！

Lam Mei Po

[2019 – 20 年度修了生]

外国語を学ぶことで、世界は広がります。私はそれをお手伝いしたくて、日本語教師を目指しています。

「集中日本語教師研修」では、教案作り、活動や評価など、色んな面で学習者を支援する方法を学ぶ事ができます。どんな教材を使ったら効果的なのか、どんな活動を導入したらいい練習のになれるのかなど、同じく教師を目指している（もしくはもう経験を持っている）クラスメイト達と意見を交わす事で、新しいアイデアを生み出す事もよくあります。

早速次の日に研修内容を活かした活動を私のレッスンで試したら、生徒達の反応や出来も想像以上によかった事もよくあります！

楽しい雰囲気の中、理論と実践をバランスよく学ぶことができた貴重な経験でした。

欧かな

私が集中日本語教師研修の存在を知ったのは 2 年前、タイ滞在中に遡ります。研究会のホームページでノンネイティブの方たちとの研修があることを知り、ぜひ受講したいと、強く惹かれました。

この研修は単なる座学形式ではなく、受講生同士のディスカッションや協働作業があり、時間を忘れるくらい楽しかったです。が、反面、研修中の 3 時間は、ぼーっとしている暇はなく頭をフル回転で使うという内容でした。また、今年唯一の日本人受講生だった私は、香港人受講生から学習者観をたくさん学ばせてもらいました。

研修でいちばん大変だと感じたのは模擬授業の組み立てでした。Can-do を立て、それを達成するために必要な活動、練習、文型や語彙は何かと考えていくという流れは頭で理解できても、うまくいきません。なぜこの活動？何を達成させる？と研修の資料や教科書を何度も見返しながら教案を作成しました。作り上げた教案は学習者が Can-do を達成するためのロードマップになるのだと模擬授業後はとても感激しました。

研修期間は長く、課題もあります。その上、考える、やってみる、振り返ると常に能動的に動かなければいけません。しかし、それを忘れるくらいの楽しさや達成感がありますので、多くの方に受講して欲しいと思います。

小川かおり

日本語教育機関で合わせて 10 年位日本語を教えてきました。ずっと同じ教科書で、同じ教え方で教えていました。飽きてしまったというより ほかの教え方があるのか、一人一人学習者に向いているシラバスがあるのか、どうすれば、学習者がもっと楽しく日本語を勉強できるのか、悩んでいた時、「集中日本語教師研修」というコースを知り、通ってみたら、すごくいい勉強になりました。

教案と Can-Do の作り方を初めて知り、日本語を教えるのには、すごく重要だと思います。今回の研修に一番印象に残っていたのは、新型コロナウイルスの感染予防対策のため、ZOOM で実習をしていたことです。実際教室で教えるのと全然違いましたので、いい経験になりました。

李敏儀・キャロル

研究会の集中日本語教師研修を受けて、一番嬉しかったことは二つあります。志望動機や趣味が近い研修生の皆さんに出会ったことと教師の本質を知ることです。

理論編と実習編に分かれていて、それぞれ勉強することは沢山あります。毎週の課題として、ポートフォリオと教案を作りました。細かいところまでコメントを書いてもらい、よくできたところと改善すべきところがはっきり分かります。それに、全ての資料はクラスで共有しますし、コメントの記入も自由ですし、研修生はお互い勉強し合うことができます。知識を深めるには、交流が大事だと思っています。

参加する前に、「教えることとは何だろう」と悩んでいましたが、今はわかってきました。本格的な日本語教師になるために一歩目を踏み出したい方、この研修を受けてみてどうでしょうか。

Katherine Lee

子供のころから日本語が好きだった。日本語を学ぶ喜びを様々な人と共有するのは夢だった。日本語教師になったら夢が叶うと思ったので、集中日本語教師研修を受けることにした。

以前は私も日本語の学習者だったから、教えることは何となく想像できると思っていたが、実に意外と色々な理論や方法がある。例えば「何をもって初級の終わりに達したと言えるか」のような質問に具体的に答えてくれた。

今はまだまだ素人で上手くできないことがたくさんあるが、進むべき道は見えていると感じる。例えば事前準備なら Can-do を立てたり、授業中なら先ずはインプットで考えさせたりすることが研修を通じて理解できたので、遠回りをせずに済んだ。

日本語教育への悩みが結構晴れるから、興味がある方は是非参加してください。

トビー

(順不同・敬称略)



日本語教育 図書教材案内 by 斎藤 誠

(国際交流基金派遣日本語専門家)



香港・マカオの日本語教育に役立ちそうな図書情報をご紹介します。
(各項目の QR コードは出版元の紹介ページへのリンクです)

1. おもてなしの日本語

心で伝える接客コミュニケーション 基本編

著者：林千賀・羽鳥美有紀・齋藤貢

発行：アスク出版 2020 年

<https://www.ask-books.com/978-4-86639-329-2/>



接客業をする上で必要な「ことば」と「おもてなしの心」を学ぶ動画付き（Web 配信）教材。各課の Can-do に沿って必要最小限の「おもてなしフレーズ 64」を、会話練習等を通じて習得します。専門学校や観光系の大学学部の留学生、または接客に従事する外国人向け、対象は N3 相当から。（出版元 HP より）

2. 今そこにある多言語ニッポン

著者：柿原武史・上村圭介・長谷川由起子

発行：くろしお出版 2020 年

https://www.9640.jp/book_view/?836



日本は「日本人が日本語を話す国」じゃない!? 多様な人々が暮らすニッポンの多言語な状況を、さまざまな視点から紹介。イスラム横丁、LINE スタンプ、小学校現場から「やさしい日本語」まで。知れば世界が豊かになる。（出版元 HP より）

3. 読む力 初中級

著者：奥田純子（監）武田悦子・久次優子・丸山友子・矢田まり子・
内田さつき

発行：くろしお出版 2020 年

https://www.9640.jp/book_view/?827



アカデミックな読みを鍛える読解教材『読む力』の初中級編。ことばが理解できているかを問う「言語タスク」と、筆者の考え・文脈などが読み取れているかを問う「認知タスク」を通して、一歩先の深い読みを身につける。読み物は、書き下ろしのエッセイから生の文章（リライトもあり）まで収録、バラエティー豊かな読み物を段階的に読み進め、タスクに取り組むことでアカデミックな読みの基礎を作っていく。タスクと連動した「スキル表」で得意なところ・伸ばしたい力を自己評価すれば、より効果的な学習に。日本語能力試験 N3、CEFR B1 前半レベルの読解を勉強したい学習者におすすめの一冊。

【関連サイト】

『読む力』WEB サイト <http://yomuchikara.jimdo.com/>

「この本の使い方」および「語彙リスト」の翻訳（英・中（簡体字・繁体字）・韓・ベトナム語）（出版元 HP より）

4. 第二言語習得について日本語教師が知っておくべきこと

著者：小柳かおる

発行：くろしお出版 2020 年

https://www.9640.jp/book_view/?831



外国語教育に役立つと言われている第二言語習得理論で、今どんなことが言われていて、日本語教育にどう生かせるのか。最新の知見を知って、教室活動を見直してみよう！

■「はじめに」より

第 1 章では、学習者が習得すべき言語能力をどうとらえるべきか、また言語を使う、言語を学ぶとはどういうことなのかを考えます。第二言語習得を促進する教室活動を考えるにあたり、まずはおさえておきたいポイントです。

第 2 章では、第二言語習得において、良くも悪くも学習者言語の発達に影響を及ぼす要因を考えます。学習者の発達段階には教師が介入して変えることができないプロセスが存在します。学習者自身が持つ特性（年齢、認知的能力や性格など）も習得に複雑に絡んでいます。また、教え方次第で学習成果が異なってくる可能性もあります。

第 3 章では、第 1・2 章を踏まえた上で、教師が教室でできることを考えます。第二言語習得の知見に基づくと、教室活動の一つ一つに、なぜやるのかという意義を見いだすことができると思います。（出版元 HP より）

5. 段落論

日本語の「わかりやすさ」の決め手

著者：石黒圭

発行：光文社（新書） 2020 年

<https://www.kobunsha.com/shelf/book/isbn/9784334044619>



文章を書くことは「引っ越し」に似ている。部屋に散らばる無数の小物をそのまま運びだし、トラックの荷台にバンバン載せていくと、あとで崩れて大変なことになる。衣類、食器、文房具、おもちゃなど、種類別にラベルを貼って段ボール箱に詰め、それを荷台に積みこむことで、効率のよい引っ越しができる。同様に、文章を書くときも、書き手の頭にある無数の「文」を、「段落」という箱に整理して入れ、順々に運び出すことが大事である。読み手の頭という新居に荷物が届いたら、ラベルを頼りに仕分けして梱包を解けば、そのまま適切な場所にしまえる。文章による情報の引っ越しは、「段落」という箱の使い方にかかっているのだ。

（出版元 HP より）

※同著者『「読む」技術』（光文社新書、2010 年）『日本語は「空気」が決める～社会言語学入門～』（光文社新書、2013 年）もおオススメです。（斎藤）

6. 使える日本語の文法ハンドブック

やさしい日本語で教室と文法をつなぐ

著者：中西久美子・坂口昌子・大谷つかさ・寺田友子

発行：ひつじ書房 2020 年

<http://www.hituzi.co.jp/hituzibooks/ISBN978-4-89476-997-7.htm>



「使える日本語」を教えるために必要な情報を平易な日本語で書いたガイドブック。国際交流基金の JF 日本語教育スタンダードの A1 から B1 レベルの学習者を教える日本語教員が、日本国内外、母語話者かどうかによらず、授業の前に読んで使えるよう配慮。本書は単なる文法書でも、タスク集でもない。「文法は不要」と思っている方にも学習者に場面で必要なことができるようになるためのタスクにおいて、文法がどう埋め込まれているかをやさしく解く。（出版元 HP より）

7. 明解日本語学辞典

著者：森山卓郎、渋谷勝己（編）

発行：三省堂 2020 年

<https://dictionary.sanseido-publ.co.jp/dict/ssd13580>



- ・引きやすい、読みやすいレイアウト。
 - ・日本語学の基礎から専門知識まで学べる、約 230 項目。
 - ・新しい概念を多く取り込み、日本語学の世界を大きく広げる。
 - ・関連項目を見つけやすい、便利な「目次索引」・「英日対照表」。
- （出版元 HP より）
-

8. 親と子をつなぐ継承語教育 日本・外国にルーツを持つ子ども

著者：近藤ブラウン妃美、坂本光代、西川朋美（編）

発行：くろしお出版 2019 年

<https://www.9640.jp/nihongo/ja/detail/?807>



■「はじめに」より

「バイリンガルに育てたいが、子どもは日本語と英語の混ざった言葉を話す。このままではどちらの言語も年齢相応のレベルに達することができなくなるのではないか」

「子どもを日本語教室に通わせているが、現地校での勉学や部活動が忙しくなり、最近行くのをとても嫌がる。子どもには現地校で落ちこぼれてほしくないし、日本語の勉強を続けさせるべきだろうか」

「継承日本語学習者の中には、日常会話には全く問題がないのに、読み書きのあまりできない学習者もいる。このような学習者に、読み書きをどう教えたらいいのか」

本書は、親や教師からのこのような悩みや疑問を受け止め、今日の日本国内外における継承語教育を「親と子をつなぐ継承語教育」と位置づけることで、その意義と価値、そしてその問題や課題について考察します。本書では、日本にルーツを持つ海外の子どもの継承日本語教育だけでなく、日本国内に住む外国にルーツを持つ子どもの継承語教育にも注目し、複言語環境下で生きる子どもや若者のために、家庭、教育機関、そしてコミュニティで何ができるかについて考えます。（出版元 HP より）

9. 日本語教育へのいざない

—「日本語を教える」ということ—

著者：広島大学大学院教育学研究科日本語教育学講座、永田良太

発行：凡人社 2019 年

<https://www.bonjinsha.com/goods/detail?id=12989&pt=3>



■「はじめに」より

日本語教育に興味がある人、日本語教師になりたい人のガイドとなる一冊です。4つのSectionからなり、国内外の日本語教育機関で活躍している執筆陣がさまざまな日本語教育の現場について、Section1では広く、Section2では深く紹介します。Section3では日本語教師になるために勉強する手段を、Section4では日本語教育能力検定試験でどのような内容が問われるかを概観し、検定を受験する意義を紹介します。「日本語を教える」という行為は同じでも、それにどのような意味づけをするかは人によって異なります。本書は読者が自ら「意味づけ」を行うことに寄与します。（出版元 HP より）

※2018 年までの「図書教材案内」のバックナンバーは香港日本語教育研究会のウェブサイトでご覧いただけます。

<https://www.japanese-edu.org.hk/jp/news/library.html>

香港日本語教育研究会カレンダー (2020 年夏)

※2020 年 5 月末現在。

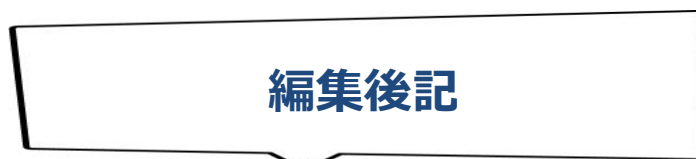
最新の情報は以下の URL にてご確認ください。

<https://www.japanese-edu.org.hk/jp/news/activities.html>

日時	名称・会場・詳細等
6/13 (土) pm2:00-4:00	月例会「オンライン授業実践報告会」 報告者：葉兆智氏（フリー） 亀島裕美氏（パソナエデュケーション） オンライン開催 ※メールにてお申し込みください seminar@japanese-edu.org.hk
7/2 (木) pm2:00-4:00 7/4 (土) pm2:00-4:00	日本語教育オンライン・ミニワークショップ 「いろどり」を見てみよう オンライン開催 ※参加希望日を明記のうえ、メールにてお申し込みください seminar@japanese-edu.org.hk 申込締切：6 月 29 日（月）
9/26 (土) ~ 2021/5/29 (土) am10:30-pm1:30	2020 - 21 年度集中日本語教師研修 https://www.japanese-edu.org.hk/jp/activities/teacher/ 7 月申込受付開始【締切：8 月 3 日（月）】 ※毎週土曜日開催ですが、休講日・特別研修日もあります。詳しい日程は上記 HP をご確認ください。



日々の授業、教材などのお悩み、相談など、日本語教育専門家に聞いてみたいことを募集します。小さなお悩みも大歓迎です。あて先：sojlehongkong@gmail.com



第 1 号を発行したとき、第 2 号編集のタイミングでまさかこんな社会になっているとは想像もできませんでした。新型コロナウイルスによって「人との触れ合い」が制限されてしまいました。日本語学習のあり方や価値観も変えてしまっています。その中でこれからの日本語教育はどうなっていくのでしょうか。皆様のご意見、ご感想をお待ちしております。（斎藤）



【お知らせ】

5 月 2 日（土）に開催したウェビナー「オンライン授業の現在」動画、資料を公開しています。下記リンクまたは右記の通りたどってご覧ください。[トップ→活動→月例会→2020 年 5 月]

- ・実践報告 ①村上仁先生（UOW カレッジ香港） ②松本真澄先生（香港理工大学）
- ・講演「オンライン授業と対面授業のデザインの違い – オンライン授業の利点と課題を考える –」
蟻末淳先生（国際交流基金ニューデリー日本文化センター）

<https://www.japanese-edu.org.hk/jp/activities/monthly/2020/may.html>

香港日本語教育フォーラム

第 2 号（2020 年 6 月発行）

発行：香港日本語教育研究会 香港日本語教育フォーラム編集委員会

編集委員：斎藤誠（編集委員長） 梁安玉 青山玲二郎 陳鴻輝

<https://www.japanese-edu.org.hk/>

[バックナンバー] 以下のアドレス内「ニュースレター」タブをクリックして下さい。

<https://www.japanese-edu.org.hk/jp/publish/>
